

2015年度 第3四半期 決算説明会

富士フイルムホールディングス株式会社

2016年1月27日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おください。

本日はお忙しいところお集まりいただき有難うございます。

富士フイルムホールディングス株式会社 2015年度第3四半期決算について、
ご説明させていただきます。

2015年度第3四半期 業績 (2015年4月~12月)

(単位:億円)

	2014年度 9ヵ月累計	2015年度 9ヵ月累計	対前年度
売上高	18,152 100.0%	18,415 100.0%	263 +1.5%
営業利益	1,244 6.9%	1,339 7.3%	95 +7.6%
税金等調整前 四半期純利益	※ 1,532 8.4%	1,417 7.7%	-115 -7.5%
当社株主帰属 四半期純利益	※ 939 5.2%	844 4.6%	-95 -10.1%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	194.73円	179.54円	-15.19円
為替 :米ドル :ユーロ	107円 140円	122円 134円	15円安 6円高

営業利益 増減要因(対前年度) 為替: +2億円、原材料: +74億円

※ J-TECの連結子会社化による評価益212億円を含む

2

2015年度第3四半期は、

フォトイメージング事業、メディカルシステム事業、電子材料事業、グラフィックシステム事業、ドキュメント事業などで売上を伸ばし、売上高は前年比263億円増の1兆8,415億円となりました。

営業利益は、各事業における収益性の改善などにより、前年比7.6%増の1,339億円となりました。

前年同期に株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリングの連結子会社化による評価益212億円を営業外収益に計上したため、

税金等調整前四半期純利益は、前年比7.5%減の1,417億円、

当社株主帰属四半期純利益は、前年比10.1%減の844億円となりました。

なお、この評価益の影響を除けば、それぞれ前年比7.4%、16.2%の増益となります。

セグメント別: 連結売上高 / 営業利益

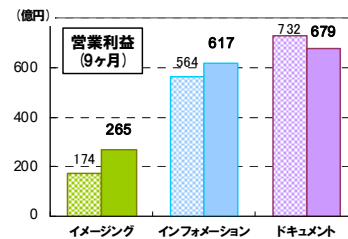
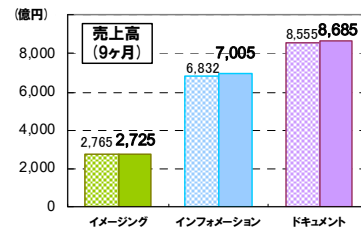
(単位: 億円)

売上高	9ヶ月		対前年度	
	2014年度	2015年度		
イメージング	2,765	2,725	-40	(-1.5%)
インフォメーション	6,832	7,005	173	(+2.5%)
ドキュメント	8,555	8,685	130	(+1.5%)
合計	18,152	18,415	263	(+1.5%)

*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益	9ヶ月		対前年度	
	2014年度	2015年度		
イメージング	174	265	91	(+52.2%)
インフォメーション	564	617	53	(+9.3%)
ドキュメント	732	679	-53	(-7.3%)
全社/連結調整	-226	-222	4	
合計	1,244	1,339	95	(+7.6%)



続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージング ソリューション部門の売上高は、
前年比1.5%減の2,725億円、
営業利益は前年比52.2%増の265億円となりました。

インフォメーション ソリューション部門の売上高は、
前年比2.5%増の7,005億円、
営業利益は前年比9.3%増の617億円となりました。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、
前年比1.5%増の8,685億円、
営業利益は前年比7.3%減の679億円となりました。

セグメント別 概況

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)			
売上高	対前年度	営業利益	前年比
2,725	-40 (-1.5%)	265	91 (+52.2%)

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”、チェキフィルム等のインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に大きく伸長。「Year Album」等の付加価値プリントビジネスの拡大等により全体で売上が増加。
- ・ 電子映像では、デジタルカメラの高級機へのシフト等により販売台数は減少したものの、アジア地域での拡販等によりプレミアムデジタルカメラ「Xシリーズ」の販売が好調に推移。
- ・ 光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの売上が大幅に減少。

デジタルカメラの高級機へのシフト等により減収となったものの、フォトイメージングにおける売上増に伴う粗利の増加等により大幅増益

4

まずイメージング ソリューション部門についてご説明します。

フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に大きく伸長しました。

10月にはチェキの新製品「instax mini 70」を発売し、ラインアップを強化しています。

また、「Year Album」や「シャッフルプリント」などの付加価値プリントビジネスの拡大等により、全体で売上が増加しました。

電子映像では、高級機へのシフトに伴いデジタルカメラの販売台数は減少したものの、アジア地域での拡販が進んだこと等により

プレミアムデジタルカメラ「Xシリーズ」の販売が好調に推移しました。

光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの売上が大幅に減少しました。

今後他社に先駆けて発売した4Kカメラ対応の放送用ズームレンズの拡販等により、売上拡大を図ります。

イメージング ソリューション部門は、デジタルカメラの高級機へのシフト等により減収となったものの、フォトイメージングでの売上増に伴う粗利の増加等により大幅に増益となりました。

セグメント別 概況

■ インフォメーション ソリューション

売上高	対前年度	営業利益	前年比
7,005	173 (+2.5%)	617	53 (+9.3%)

(単位:億円)

- ・ メディカルシステムでは、医療IT、内視鏡、超音波診断など成長分野での販売が好調に推移し売上が増加。医薬品はバイオ医薬品受託製造が好調に推移したこと等により売上が増加。
- ・ フラットパネルディスプレイ材料は、パネル市況減速による生産調整の影響等により売上が減少。中小型ハイエンド品向けの拡販、新規分野への展開を推進。
- ・ 産業機材ではエクスクリアなど新規事業の販売が好調に推移、電子材料では先端品のフォトレジストや処理剤などの販売が好調に推移し、売上が増加。
- ・ 記録メディアは、業務用ビデオテープの総需要減により売上が減少したものの、独自技術を使用したデータストレージ用磁気テープの販売は好調に推移。
- ・ グラフィックシステムでは、デジタルプリンティング機器や産業用インクジェットヘッドの販売が好調で売上増加。

フラットパネルディスプレイ材料の売上は減少したものの、
メディカルシステム、グラフィックシステム等での売上増、
収益性改善等により増収増益

5

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

ヘルスケアのうち、メディカルシステムでは、医療IT、内視鏡、超音波診断など成長分野での販売好調により、売上が増加しました。先進的かつ独自性のある新製品の投入や新興国での拡販により、成長分野での対前年2ケタ%の売上成長を見込んでいます。

医薬品は、バイオ医薬品受託製造が好調に推移したこと等により売上が増加しました。また、研究開発においては、抗がん剤やアルツハイマー型認知症治療薬などのパイプラインの開発を着実に推進しており、1月には抗がん剤「FF-21101」の米国での臨床第I相試験を開始しました。

また、再生医療事業では、iPS細胞の開発・製造のリーディングカンパニーであるCellular Dynamics International社を5月に連結子会社化すると共に、10月には国内のセルラー・ダイナミクス・インターナショナル・ジャパン株式会社を設立しました。再生医療製品開発の加速、事業領域の拡大を進めていきます。

フラットパネルディスプレイ材料は、パネル市況減速による生産調整の影響等により売上が減少しました。液晶テレビ向けの販売を維持しつつ、中小型ハイエンド品向けの拡販を推進していくと共に、タッチパネルやバックライト関連等新規分野への展開を積極的に行っていきます。

産業機材では、エクスクリアや太陽電池用バックシートなど新規事業の販売が好調に推移したことなどにより、売上が大幅に増加しました。電子材料では先端品のフォトレジストや処理剤などの販売が好調に推移し、売上が増加しました。12月には米国の高純度溶剤製造・販売会社のUltra Pure Solutions社の買収を完了し連結子会社化しました。これによる製品ラインアップの拡大などを通じてさらなる事業成長を図ります。

記録メディアは、業務用ビデオテープの総需要減少の影響を受け、売上が減少したものの、「BaFe(バリウムフェライト)磁性体」などの独自技術を使用したデータストレージ用磁気テープの販売が好調に推移しました。当社は、独自技術によるテープ高容量化で業界をリードすると共に、データアーカイブサービスのさらなる展開を進めていきます。

グラフィックシステムでは、刷版分野において中国での景気減速等の影響を受けたものの、デジタルプリンティング機器や産業用インクジェットヘッドの販売が好調に推移し、売上が増加しました。

インフォメーション ソリューション部門は、生産調整などの影響によりフラットパネルディスプレイ材料事業の売上は減少したものの、メディカルシステム、グラフィックシステムなどでの売上増、収益性改善などにより、増収増益となりました。

セグメント別 概況

■ ドキュメント ソリューション

(単位:億円)			
売上高	対前年度	営業利益	前年比
8,685	130 (+1.5%)	679	-53 (-7.3%)

- ・ 売上は、アジア・オセアニア地域の売上増等により増収。
 - オフィスプロダクトは、米国ゼロックス社向け輸出台数が減少したものの、国内大手コンビニエンスストアでの機械代替等により、カラー複合機の販売台数が増加し、全体で販売台数が増加。
 - オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域でのモノクロ機が好調に推移したものの全体で販売台数が減少。
 - プロダクションサービスは、カラー・オンデマンド・パブリッシング・システム及びモノクロ・プロダクション・プリンターの販売が好調に推移し、全体で販売台数が増加。
 - グローバルサービスは、マネージド・プリント・サービスが好調に推移し、国内及びアジア・オセアニア地域ともに売上が増加。
- ・ 営業利益は、米ドル高による原価アップ、及びアジアローカル通貨安による粗利のマイナス影響等により減益。

**アジア・オセアニア地域の売上増等により増収となったものの、
為替による粗利のマイナス影響等により減益**

6

ドキュメント ソリューション部門については、
アジア・オセアニア地域の売上増等により増収となりました。

オフィスプロダクトは、米国ゼロックス社向け輸出台数が減少したものの、国内大手コンビニエンスストアでの機械代替等により、全体では販売台数が増加しました。また、プロダクションサービスについても、カラー・オンデマンド・パブリッシング・システム及びモノクロ・プロダクション・プリンターの販売が好調に推移し、販売台数が増加しました。グローバルサービスは、マネージド・プリント・サービスが好調に推移し、国内、アジア・オセアニア地域ともに売上が増加しました。

営業利益は、米ドル高による原価アップ、及びアジアローカル通貨安による粗利のマイナス影響等により減益となりました。

グローバルサービス等の成長領域の拡大や、アジア・オセアニア地域でのさらなる拡販を進めるとともに、経費削減及び原価改善施策の追加・加速等で収益性を高めていきます。

連結貸借対照表

					(単位:億円)				
	13年度末	14年度末	15年12月末	対14年度末		13年度末	14年度末	15年12月末	対14年度末
現金及び現金同等物	6,046	7,269	6,130	-1,139	長短社債及び借入金	3,597	3,497	3,836	339
受取債権	6,368	6,810	6,374	-436	支払債務	2,659	2,690	2,609	-81
棚卸資産	3,637	3,725	3,976	251	その他流動固定負債	4,032	4,705	4,293	-412
有価証券 その他流動資産	1,566	1,628	1,724	96	負債計	10,288	10,892	10,738	-154
流動資産計	17,617	19,432	18,204	-1,228	株主資本計	20,206	22,327	21,586	-741
有形固定資産	5,303	5,274	5,347	73	非支配持分	1,776	2,347	2,365	18
営業権	4,231	5,050	5,293	243	純資産計	21,982	24,674	23,951	-723
投資有価証券 その他資産	5,119	5,810	5,845	35	負債・純資産合計	32,270	35,566	34,689	-877
固定資産計	14,653	16,134	16,485	351	(単位:円)				
資産合計	32,270	35,566	34,689	-877	期末日為替レート	13年度末	14年度末	15年12月末	対14年度末
					米ドル	103	120	121	1円安
					ユーロ	142	130	132	2円安

次に、バランスシートについてご説明します。

2015年12月末時点の資産合計は、現金及び現金同等物の減少や、受取債権の減少などにより、2015年3月末時点と比べ、877億円減の3兆4,689億円となりました。

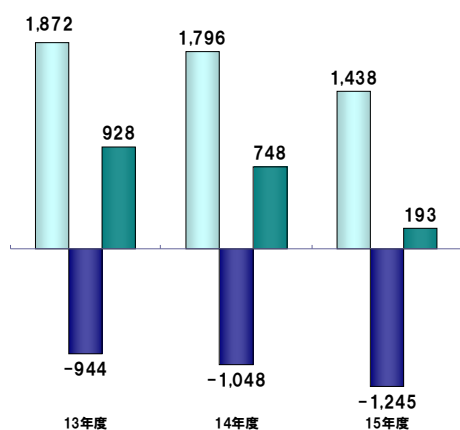
負債は154億円減の1兆738億円、株主資本は自己株式の取得などにより、741億円減の2兆1,586億円となりました。

流動比率は13.2ポイント減の299.1%、負債比率は0.9ポイント増の49.7%、株主資本比率は0.6ポイント減の62.2%となり、資産の流動性及び資本構成の安定性をともに維持しております。

キャッシュ・フロー

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー

キャッシュフロー（9ヶ月）



(単位:億円)

	13年度 9ヶ月	14年度 9ヶ月	15年度 9ヶ月
四半期純利益	775	1,071	977
減価償却費	1,043	907	880
受取債権の増(-)減(+)	244	252	280
棚卸資産の増(-)減(+)	-1	-156	-270
営業債務の増(+)-減(-)	-123	-228	-24
未払法人税等他負債の増(+)-減(-)	-84	-55	-267
その他	18	5	-138
営業活動によるCF	1,872	1,796	1,438
設備投資	-574	-437	-462
ソフトウェアの購入	-166	-174	-177
有価証券・投資有価証券等の売却・購入	-24	-193	99
その他	-180	-244	-705
投資活動によるCF	-944	-1,048	-1,245
フリー・キャッシュ・フロー	928	748	193
営業活動によるCF+設備投資	1,298	1,359	976

8

続いて、キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、受取債権の減少などにより、1,438億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、事業の買収や有形固定資産の購入などにより、1,245億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは193億円のプラスとなりました。

以上で、2015年度第3四半期決算の説明とさせていただきます。

2015年度 連結業績予想 (2016年1月27日時点)

	2014年度	2015年度 (予想)	対前年度	(単位:億円) 2016年度目標 (VISION2016)
売上高	24,926 100.0%	25,800 100.0%	874 +3.5%	26,300 100%
営業利益	1,724 6.9%	1,900 7.4%	176 +10.2%	2,200 8.4%
税金等調整前 当期純利益	1,971 7.9%	1,900 7.4%	-71 -3.6%	—
当社株主帰属 当期純利益	1,186 4.8%	1,200 4.7%	14 +1.2%	1,200 4.6%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	245.94円	※248.85円	2.91円	—
ROE	5.6%	5%台半ば	—	7.0%
為替 :米ドル	110円	122円	12円安	100円
:ユーロ	139円	133円	6円高	135円
銀価格(/kg)	64,000円	61,000円	-3,000円	76,000円

第4四半期の為替レートは 米ドル:120円、ユーロ:130円を想定。

※算定上の基礎となる期中平均株式数については、2015年3月末の発行済株式数(自己株式数を除く)を使用。

■2015年度配当金 6期連続増配となる、年間:65円/株を予定

続きまして、2015年度の連結業績予想ですが、当初の予想から変更しておりません。

この通期業績予想達成に向け順調に進捗しており、
第4四半期も引き続き成長戦略を推進していきます。

最後に配当金についてですが、期末配当は1株当たり32円50銭を予定しております。
中間配当金と合わせた当年度の年間配当金につきましては、6期連続増配となる、対
前年5円増配の1株当たり65円を予定しております。

以上、2015年度第3四半期決算及び、通期業績予想についてご説明いたしました。
ご静聴いただき、ありがとうございました。

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社
経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>

2015年度第3四半期 決算説明会

参考資料

3Q/9ヶ月 業績

(単位:億円)

	2014年度3Q	2015年度3Q	対前年度	2014年度 9ヵ月累計	2015年度 9ヵ月累計	対前年度
売上高	6,323 100.0%	6,154 100.0%	-169 -2.7%	18,152 100.0%	18,415 100.0%	263 +1.5%
営業利益	528 8.4%	532 8.7%	4 +0.8%	1,244 6.9%	1,339 7.3%	95 +7.6%
税金等調整前 四半期純利益	774 12.2%	571 9.3%	-203 -26.1%	1,532 8.4%	1,417 7.7%	-115 -7.5%
当社株主帰属 四半期純利益	533 8.4%	374 6.1%	-159 -29.8%	939 5.2%	844 4.6%	-95 -10.1%
為替 :米ドル :ユーロ	115円 143円	122円 133円	7円安 10円高	107円 140円	122円 134円	15円安 6円高

*営業利益 増減要因(9ヶ月 対前年度) 為替: +2億円、原材料: +74億円

<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヶ月 業績

(単位:億円)

売上高	3Q			9ヶ月		
	2014年度	2015年度	対前年度	2014年度	2015年度	対前年度
イメージング	1,076	994	-82 (-7.6%)	2,765	2,725	-40 (-1.5%)
インフォメーション	2,396	2,401	5 (+0.2%)	6,832	7,005	173 (+2.5%)
ドキュメント	2,851	2,759	-92 (-3.2%)	8,555	8,685	130 (+1.5%)
合計	6,323	6,154	-169 (-2.7%)	18,152	18,415	263 (+1.5%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q			9ヶ月		
	2014年度	2015年度	対前年度	2014年度	2015年度	対前年度
イメージング	128 [11.9%]	141 [14.1%]	13 (+9.8%)	174 [6.3%]	265 [9.6%]	91 (+52.2%)
インフォメーション	240 [10.0%]	269 [11.2%]	29 (+11.8%)	564 [8.2%]	617 [8.8%]	53 (+9.3%)
ドキュメント	235 [8.2%]	196 [7.0%]	-39 (-17.0%)	732 [8.5%]	679 [7.8%]	-53 (-7.3%)
全社/連結調整	-75	-74	1	-226	-222	4
合計	528 [8.4%]	532 [8.7%]	4 (+0.8%)	1,244 [6.9%]	1,339 [7.3%]	95 (+7.6%)

13

<当スライドは配付資料です>

3Q(3ヶ月) セグメント別 ハイライト

■ イメージング ソリューション

- インスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に好調で、フォトイメージングの売上が増加。
- 電子映像は、高級機へのシフトに伴い販売台数が前年同期比で大幅に減少したものの、ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM X-T10」を中心に「Xシリーズ」の販売が好調に推移。
- 光学デバイスはスマートフォン用カメラモジュールの販売が大幅に減少。

■ インフォメーション ソリューション

- メディカルシステムでは医療IT、内視鏡、X線画像診断装置等の売上が好調に推移。医薬品は、バイオ医薬品受託製造が順調に推移し売上が増加。
- フラットパネルディスプレイ材料は、モニター需要縮小に伴うWVフィルムの販売減等により売上が減少。
- 産業機材は、「エクスクリア」、太陽電池用バックシート等の新規事業の販売の好調等により売上が大幅に増加。電子材料は先端品のレジストや処理剤等の販売が好調に推移。

■ ドキュメント ソリューション

- 売上高は、グローバルサービスの売上が増加したが、全体では減収。
- 営業利益は、米ドル高による原価アップ及びアジアローカル通貨安による粗利のマイナス影響等により減益。

<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヶ月 業績

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高	3Q			9ヶ月		
	2014年度	2015年度	対前年度	2014年度	2015年度	対前年度
フォトイメージング	738	750	12 (+1.6%)	1,827	1,951	124 (+6.8%)
電子映像	209	153	-56 (-26.6%)	549	478	-71 (-12.9%)
光学デバイス	129	91	-38 (-29.5%)	389	296	-93 (-24.0%)
光学・電子映像	338	244	-94 (-27.7%)	938	774	-164 (-17.5%)
合計	1,076	994	-82 (-7.6%)	2,765	2,725	-40 (-1.5%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

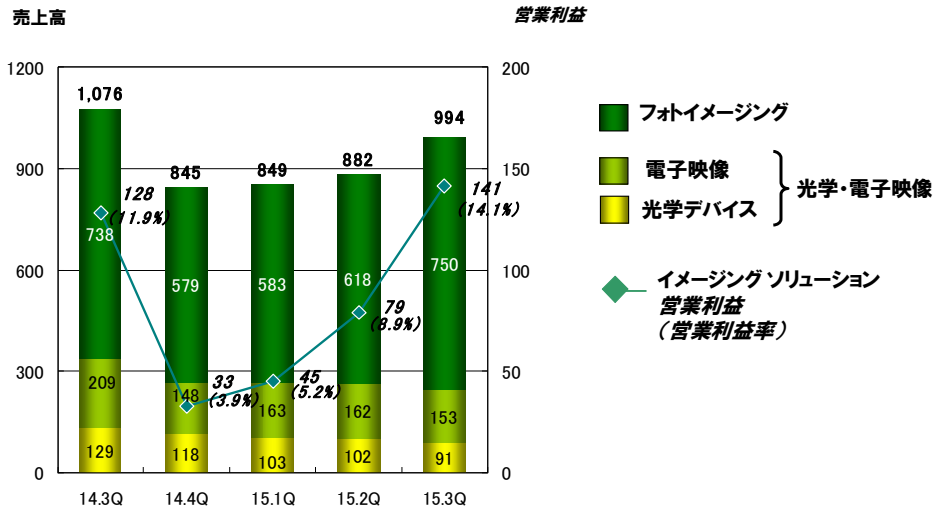
営業利益 [営業利益率]	3Q			9ヶ月		
	2014年度	2015年度	対前年度	2014年度	2015年度	対前年度
イメージング	128 [11.9%]	141 [14.1%]	13 (+9.8%)	174 [6.3%]	265 [9.6%]	91 (+52.2%)

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ イメージングソリューション

(単位:億円)



<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヶ月 業績

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	3Q			9ヶ月		
	2014年度	2015年度	対前年度	2014年度	2015年度	対前年度
ヘルスケア	961	1,033	72 (+7.5%)	2,696	2,953	257 (+9.5%)
フラットパネル ディスプレイ材料	335	258	-77 (-22.8%)	982	714	-268 (-27.2%)
産業機材/電子材料	246	271	25 (+10.1%)	675	793	118 (+17.4%)
高機能材料	581	529	-52 (-8.9%)	1,657	1,507	-150 (-9.1%)
記録メディア	133	122	-11 (-8.4%)	356	340	-16 (-4.5%)
グラフィックシステム	706	699	-7 (-0.9%)	2,076	2,154	78 (+3.8%)
その他	15	18	3 (+19.3%)	47	51	4 (+10.8%)
合計	2,396	2,401	5 (+0.2%)	6,832	7,005	173 (+2.5%)

*セグメント間取引消去後

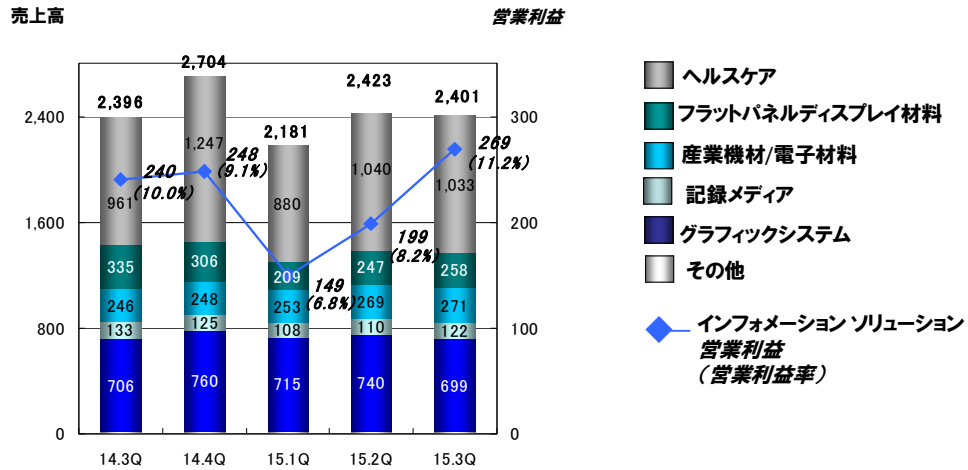
(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q			9ヶ月		
	2014年度	2015年度	対前年度	2014年度	2015年度	対前年度
インフォメーション	240 [10.0%]	269 [11.2%]	29 (+11.8%)	564 [8.2%]	617 [8.8%]	53 (+9.3%)

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ インフォメーション ソリューション (単位: 億円)



<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヶ月 業績

■ ドキュメントソリューション

(単位:億円)

売上高	3Q			9ヶ月		
	2014年度	2015年度	対前年度	2014年度	2015年度	対前年度
オフィスプロダクト	1,280	1,216	-64 (-5.1%)	3,870	3,782	-88 (-2.3%)
オフィスプリンター	451	424	-27 (-6.0%)	1,351	1,425	74 (+5.5%)
プロダクションサービス	389	368	-21 (-5.5%)	1,132	1,173	41 (+3.6%)
グローバルサービス	444	466	22 (+5.0%)	1,310	1,410	100 (+7.6%)
その他	287	285	-2 (-0.6%)	892	895	3 (+0.3%)
合計	2,851	2,759	-92 (-3.2%)	8,555	8,685	130 (+1.5%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q			9ヶ月		
	2014年度	2015年度	対前年度	2014年度	2015年度	対前年度
ドキュメント	235 [8.2%]	196 [7.0%]	-39 (-17.0%)	732 [8.5%]	679 [7.8%]	-53 (-7.3%)

19

<当スライドは配付資料です>

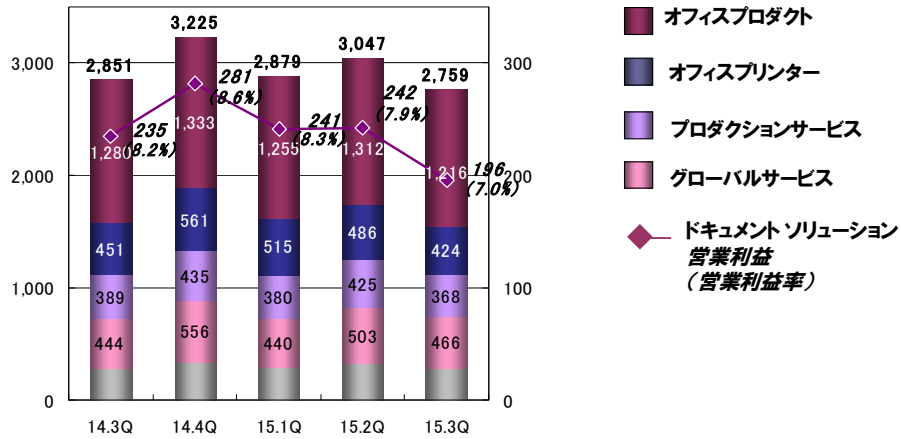
セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ドキュメントソリューション

(単位: 億円)

売上高

営業利益



<当スライドは配付資料です>

国内・海外別連結売上高

(単位:億円)

	2014年度 9ヶ月		2015年度 9ヶ月		対前年度	
	構成比 (%)		構成比 (%)			
日本	40.4%	7,337	39.2%	7,216	-121	(-1.6%)
米州	19.1%	3,463	20.7%	3,810	347	(+10.0%)
欧州	12.0%	2,178	11.6%	2,139	-39	(-1.8%)
内、中国	11.1%	2,022	11.5%	2,109	87	(+4.3%)
アジア他	28.5%	5,174	28.5%	5,250	76	(+1.5%)
海外	59.6%	10,815	60.8%	11,199	384	(+3.6%)
合計	100.0%	18,152	100.0%	18,415	263	(+1.5%)

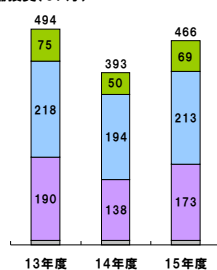
21

<当スライドは配付資料です>

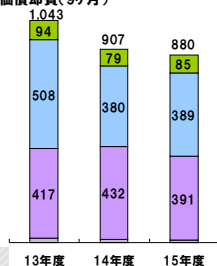
設備投資、減価償却費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

設備投資(9ヶ月)



減価償却費(9ヶ月)



(単位:億円)

年度	3Q			9ヶ月			通期		2015 (予想)
	2013	2014	2015	2013	2014	2015	2013	2014	
イメージング	20	6	20	75	50	69	93	79	-
インフォメーション	77	48	83	218	194	213	324	293	-
ドキュメント	113	44	73	190	138	173	239	173	-
コーポレート	3	4	5	11	11	11	14	16	-
設備投資 ※	213	102	181	494	393	466	670	561	800
イメージング	34	31	28	94	79	85	135	111	-
インフォメーション	176	131	133	508	380	389	686	510	-
ドキュメント	144	149	139	417	432	391	561	587	-
コーポレート	9	5	5	24	16	15	32	21	-
減価償却費	363	316	305	1,043	907	880	1,414	1,229	1,250
有形固定資産の減価償却費 ※	228	155	166	653	478	473	907	651	700

※ドキュメントソリューション部門等のレンタル機器を除く。

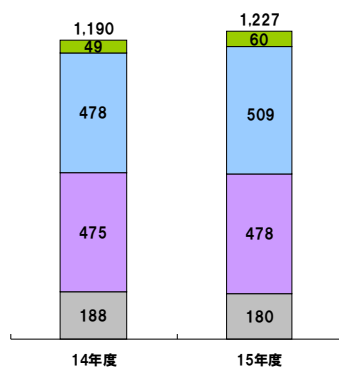
<当スライドは配付資料です>

研究開発費、販売費及び一般管理費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)

研究開発費(9ヶ月)



年度	3Q		9ヶ月		通期	
	2014	2015	2014	2015	2014	2015 (予想)
イメージング	15	21	49	60	68	-
インフォメーション	159	161	478	509	657	-
ドキュメント	158	156	475	478	629	-
コーポレート	60	60	188	180	257	-
研究開発費	392	398	1,190	1,227	1,611	1,650
<売上高比>	6.2%	6.5%	6.6%	6.7%	6.5%	6.4%
販売費及び一般管理費	1,554	1,562	4,600	4,732	6,280	-
<売上高比>	24.5%	25.3%	25.2%	25.6%	25.2%	-

23

<当スライドは配付資料です>

為替、原材料価格、人員

為替

(単位:円)

	2014年度						2015年度				
	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	通期(予想)
米ドル	102	104	115	107	119	110	121	122	122	122	122
ユーロ	140	138	143	140	134	139	134	136	133	134	133

*2015年度 営業利益 為替感応度 米ドル:8億円、ユーロ:8億円

原材料価格 (平均)

(単位:千円/kg)

	2014年度						2015年度				
	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	通期(予想)
銀	65	67	62	64	64	64	64	60	58	61	61

人員

(単位:人)

	2014.12末	2015.3末	2015.6末	2015.9末	2015.12末
連結	80,248	79,235	78,792	78,158	77,928

<当スライドは配付資料です>

パイプライン

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階	備考
T-705	抗インフルエンザウイルス薬	経口	日本	承認済み	2014年3月承認(アビガン錠®)
			米国	Ph III 実施中	国防省の助成金により臨床試験実施中
T-3811	キノロン系合成抗菌薬	経口	中国	承認申請中	国内はジェニナック錠として上市済み
T-2307	抗真菌薬	注射	米国	Ph I 終了	
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph II 実施中	Alzheimer's Disease Cooperative Study (ADCS) と臨床試験実施中
			日本	Ph II 実施中	京都大学IPS細胞研究所との共同研究によりバイオマーカーの探索・特定を目指す
T-4288	マクロライド系抗菌薬	経口	日本	Ph II 実施中	
ITK-1	去勢抵抗性前立腺がん治療薬 <small>バイオ</small>	注射	日本	Ph III 実施中	
FF-10501	再発・難治性骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I 終了	MDアンダーソンがんセンター(米国)と臨床開発推進中
			米国	Ph I 実施中	
FF-10502	進行・再発肺がん/卵巣がん治療薬	注射	米/欧/日	Ph I 準備中	
FF-21101	進行・再発非小細胞肺がん/肺がん治療薬 (Armed抗体) <small>バイオ</small>	注射	米	Ph I 実施中	
			欧/日	Ph I 準備中	
F-1311	前立腺がん診断薬(放射性医薬品)		日本	Ph II 実施中	
FF-10101	再発・難治性急性骨髄性白血病治療薬	経口	米国	非臨床試験実施中	

※持分法適用会社の協和キリン富士フィルムバイオロジクス(FKB)のFKB327(アダリムマブバイオシミラー)は、米国、その他でPh III 実施中。FKBとアストラゼネカ社のJVのFKB238(ベバシマブバイオシミラー)は、欧州でPh I 実施中。

25

<当スライドは配付資料です>

2015年度 セグメント別業績予想（2016年1月27日時点）

（単位：億円）

売上高	2014年度	2015年度 （予想）	対前年度	2016年度目標 （VISION2016）
イメージング	3,610	3,700	90	3,600
インフォメーション	9,536	9,900	364	10,300
ドキュメント	11,780	12,200	420	12,400
合計	24,926	25,800	874	26,300

*セグメント間取引消去後

（単位：億円）

営業利益	2014年度	2015年度 （予想）	対前年度	2016年度目標 （VISION2016）
イメージング	207	300	93	250
インフォメーション	812	900	88	1,050
ドキュメント	1,013	1,000	-13	1,250
全社/連結調整	-308	-300	8	-350
合計	1,724	1,900	176	2,200

<当スライドは配付資料です>

参考情報

富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

富士フィルムホールディングス アニュアルレポート2015

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual_reports/2015/index.html

IRイベント資料

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html

・事業説明会資料

- 2015年 11月 医薬品事業説明会
- 2015年 12月 エレクトロニクスマテリアルズ事業説明会

富士フィルムってどんな会社？

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

27

<当スライドは配付資料です>

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社
経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>